

Kansai Economic Insight Monthly

2019/5/24

Vol.73 April/May

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR数量分析センター長)、馬騰・KARAVASILEV Yani (各APIR研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)、Cao Thi Khanh Nguyet(関西学院大学講師)、野村亮輔です。

▼本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	10
中国景気モニター	11
主要月次統計	15
Release Calendar	16

要旨

- 景気は足下悪化、先行きも悪化の兆し※ -

- ✓ 3月の生産は2カ月ぶりの前月比マイナス。結果、1-3月期は前期比-3.1%下落し、2四半期ぶりのマイナス。なお、近経局は生産の基調判断を「足踏みをしている」と前月から据え置いた。
- ✓ 4月の貿易収支は3カ月連続の黒字だが、前年比縮小した。米中貿易摩擦の影響を受け、対中貿易収支が10カ月連続の赤字で赤字幅は前年比大幅拡大した。
- ✓ 4月の景気ウォッチャー現状判断DIは、2カ月ぶりに前月比改善だが、5カ月連続で50を下回った。好調なインバウンド需要に加え、レジャー関連を中心に改元に伴う消費者心理が影響した。
- ✓ 2月の関西実質現金給与総額は2カ月連続の前年比プラスだが、伸びは小幅にとどまった。
- ✓ 3月の大型小売店販売額は5カ月ぶりの前年比プラス。百貨店はインバウンド需要の影響でプラスに寄与したが、スーパーは、気温の影響もあり、季節品の不調によりマイナスに寄与した。
- ✓ 3月の新設住宅着工戸数は2カ月ぶりに前年比増加した。結果、1-3月期は4四半期連続のプラス。うち、貸家は減少したものの、持家と分譲は増加した。
- ✓ 3月の有効求人倍率は前月比横ばい、新規求人倍率は4カ月ぶりに同悪化。完全失業率も4カ月ぶりに悪化し、雇用情勢に一服感がみられる。
- ✓ 3月の建設工事出来高は13カ月連続の前年比増加となった。結果、1-3月期は4四半期連続で前年から増加した。また、4月の公共工事請負金額は2カ月ぶりの前年比増加。
- ✓ 4月の関空の外国人入国者数は7カ月連続で前年比増加だが、一桁台の伸びが続いている。国籍別にみると、2月の台湾からの入国者は2カ月ぶりに前年比減少し、韓国・香港は9カ月連続で同減少しており、依然伸びは低調である。
- ✓ 4月の製造業購買担当者景況指数は2カ月ぶりの悪化だが、2カ月連続で景気分岐点を上回っている。米中貿易摩擦の影響を受け、中国の工業生産は低調な伸びにとどまっている。また、社会消費品小売総額は3カ月ぶりに下落し、16年ぶりの低水準となった。

【関西経済のトレンド】

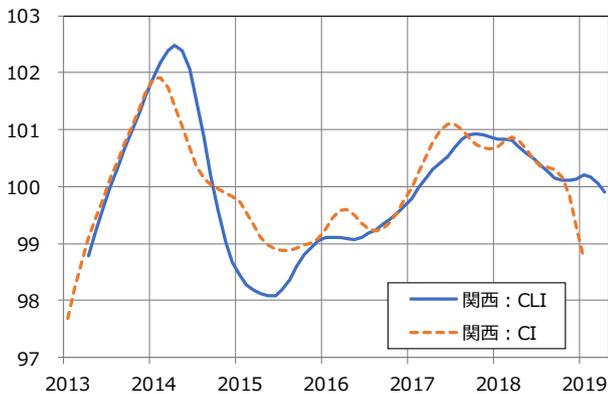
	2018年										2019年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
生産	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↗	↘		
貿易	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↗	↗	
センチメント	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↗	↘	↘	
消費	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘		
住宅	↗	↗	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↘	↗		
雇用	↘	↘	↗	↗	↗	↗	↘	↘	↘	↘	↗	↘		
公共工事	↘	↘	↗	↗	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↗	↘	↘	
中国	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	

(*トレンドの判断基準)

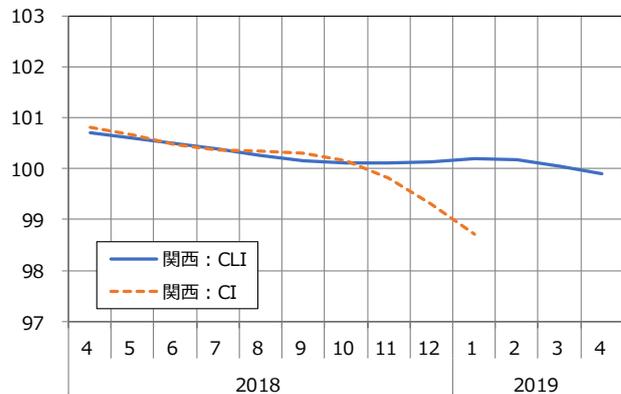
- ・ **生産**：近畿経済産業局『近畿地域域工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2013年1月~2019年4月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2018年4月~2019年4月)



【**鉱工業生産動向**】

(1) 関西の生産動向

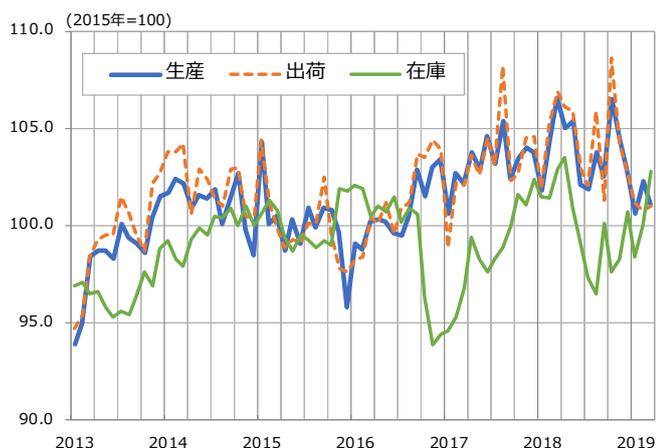
関西 3 月の鉱工業生産動向(速報値: 季節調整済、2015 年=100)を見ると、生産は 101.1 で前月比-1.2%と 2 カ月ぶりの低下、出荷は 101.0 で同+0.2%と 5 カ月ぶりに上昇、在庫は 102.8 で、同+2.8%と 2 カ月連続で上昇した。近畿経済産業局は同月の基調判断を、「生産は足踏みをしている」と前月から据え置いた。

結果、1-3 月期の生産は前期比-3.1%下落し(10-12 月期は前期比+1.8%)、2 四半期ぶりのマイナス。

3 月の生産指数を業種別にみると、汎用・業務用機械工業(前月比-5.6%、2 カ月連続)、電気・情報通信機械工業(同-4.9%、2 カ月ぶり)、輸送機械工業(同-5.5%、3 カ月連続)等が減産となった。一方、食料品・たばこ工業(同+4.9%、2 カ月ぶり)、鉄鋼・非鉄金属工業(同+3.8%、2 カ月連続)、窯業・土石製品工業(同+6.5%、3 カ月ぶり)等が増産となった。

なお、生産と強い関係がある実質輸出(季節調整済、2015 年=100)を見ると、3 月(確報値)は 109.5 で、前月比-0.2%と 2 カ月ぶりのマイナス。結果、1-3 月期は前期比-2.8%減少し、2 四半期ぶりのマイナス(10-12 月期は前期比+9.1%)。

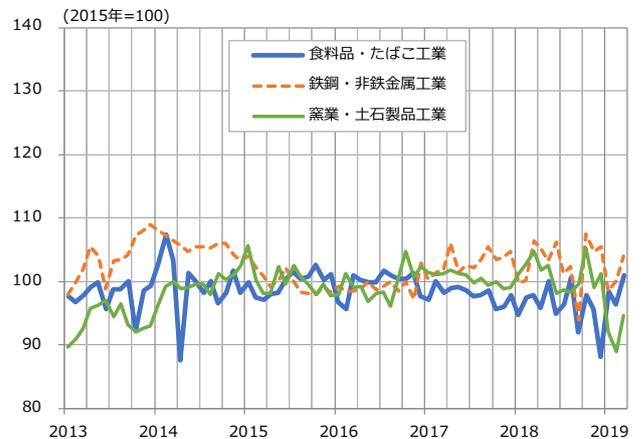
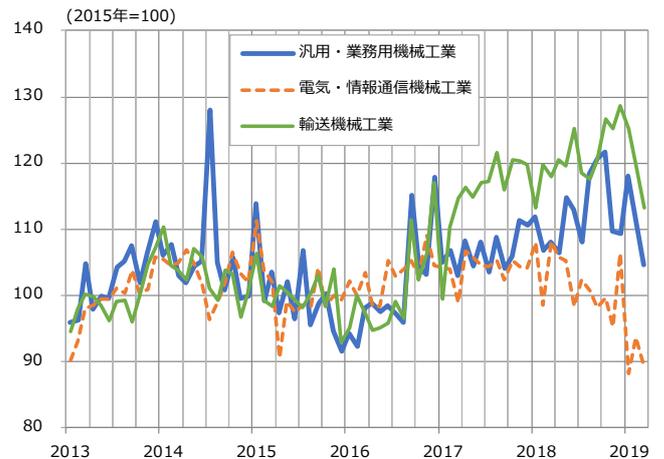
関西の鉱工業生産動向の推移(2013 年 1 月~2019 年 3 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2013 年 1 月~2019 年 3 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

(2) 全国の生産動向

全国 3 月の鉱工業指数(確報値: 季節調整済、2015 年=100)を見ると生産は 102.2 で前月比-0.6%、出荷は 100.9 で同-1.3%とそれぞれ 2 カ月ぶりに低下。在庫は 103.8 で同+1.4%と 2 カ月連続上昇した。

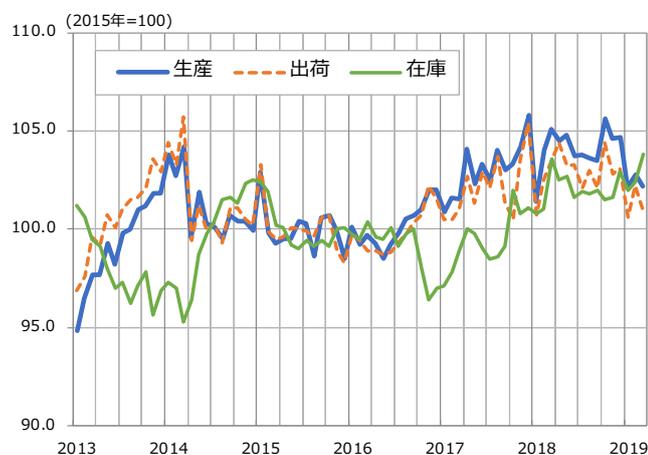
3 月の生産指数を業種別にみると、生産用機械工業(前月比-6.2%)、自動車工業(同-2.5%)、金属製品工業(同-4.4%)等が減産となった。一方、汎用・業務用機械工業(同+4.8%)、電子部品・デバイス工業(同+5.8%)、無機・有機化学工業(同+4.8%)等が増産となった。

結果、1-3 月期の生産は前期比-2.5%と、2 四半期ぶりの減産に転じた(10-12 月期は前期比+1.3%)。

なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、4

月は前月比+2.7%、5月は同+3.6%と増産が予測されている。

全国の鉱工業指数の推移(2013年1月~2019年3月)



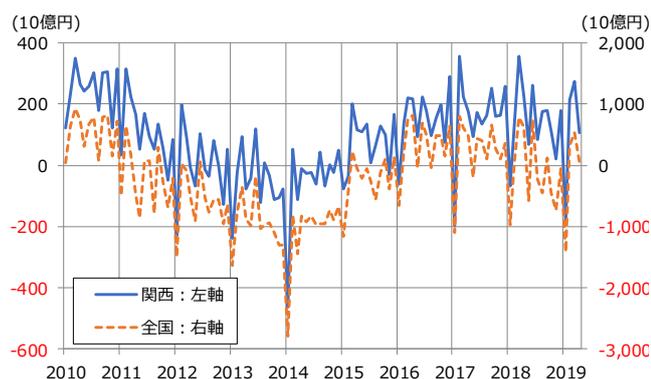
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西4月の貿易収支は+1,046億円と3カ月連続の黒字となった。輸出額が減少する一方で、輸入総額は増加しており、結果、黒字幅は前年同月比-53.8%縮小した。2カ月連続のマイナス。

関西・全国の貿易収支の推移(2010年1月~2019年4月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

また、全国4月の貿易収支(速報値)は、+604億円と3カ月連続の黒字となったが、前年同月比-90.3%縮小した。中国とEU向けの輸出が減少する一方で、鉱物性燃料価格の上昇により輸入額が増加したためである。

米中貿易摩擦により、主要国の対中輸出が減速しており、先行きの動向に引き続き注視すべきである。

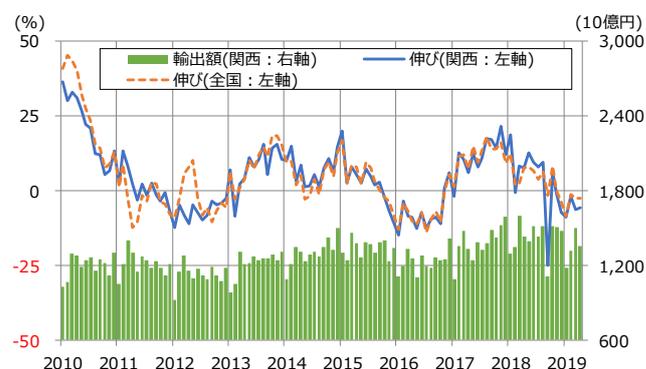
(2) 輸出

関西4月の輸出額(速報値)は1兆3,544億円で、前年同月比-5.7%と6カ月連続の減少。財別にみれば、主に中国向けのスマートフォンやタブレットに使う半導体等電子部品と韓国向けの半導体製造装置が減少した。

なお、日銀の実質輸出(季節調整値、2015年平均=100)によると、4月(速報値)は105.4となり、前月比-3.8%と2カ月連続のマイナス。4月実績は1-3月平均比-3.2%低下した。

全国4月の輸出額(速報値)は6兆6,588億円で、前年同月比-2.4%と5カ月連続の減少。財別に見れば、半導体製造装置、船舶及び半導体等電子部品が減少した。

関西・全国の輸出の推移(2010年1月~2019年4月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(3) 輸入

関西4月の輸入額(速報値)は1兆2,498億円で、前年同月比+3.3%と、3カ月ぶりのプラスとなった。財別にみれば、たばこ及び医薬品が増加した。

なお、日銀の実質輸入(季節調整値、2015年平均=100)によると、4月(速報値)は101.2となり前月比-3.1%と5カ月のマイナス。結果、4月実績は1-3月平均比-3.5%低下した。

全国4月の輸入額(速報値)は6兆5,983億円で、前年同月比+6.4%と2カ月連続の増加。財別に見れば、原油、電算機類(含む周辺機器)及び通信機が増加した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月~2019年4月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西4月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア(含中国)の貿易収支は+1,862億円で3カ月連続の黒字となったが、黒字幅は前年同月比-35.8%と2カ月連続で縮小した。輸出(8,763億円)は6カ月連続のマイナス(同-9.5%)。財別に見れば、半導体等電子部品、半導体製造装置等が減少した。輸入(6,900億円)は2カ月連続のプラス(同+1.8%)。主に通信機と織物用糸及び繊維製品が増加した。

うち、対中貿易収支は-729億円で10カ月連続の赤字となり、赤字幅は前年同月比大幅拡大した(同+214.3%)。輸出(3,177億円)は8カ月連続のマイナス(同-13.5%)。財別に見ると、半導体等電子部品、科学光学機器等が減少した。輸入(3,906億円)は2カ月ぶりの小幅マイナス(同-0.0%)。財別に見ると、がん具及び遊戯用具、事務用機器が減少した。

対米貿易収支は+838億円の黒字となり、黒字幅は前年同月比+39.2%大幅増加した。輸出(2,047億円)は3カ月連続のプラス(同+7.4%)。財別に見れば、建設用・鉱山用機械と医薬品が増加した。輸入(1,209億円)は2カ月ぶりのマイナス(同-7.3%)。財別に見れば、有機化合物・天然ガス及び製造ガスが減少した。

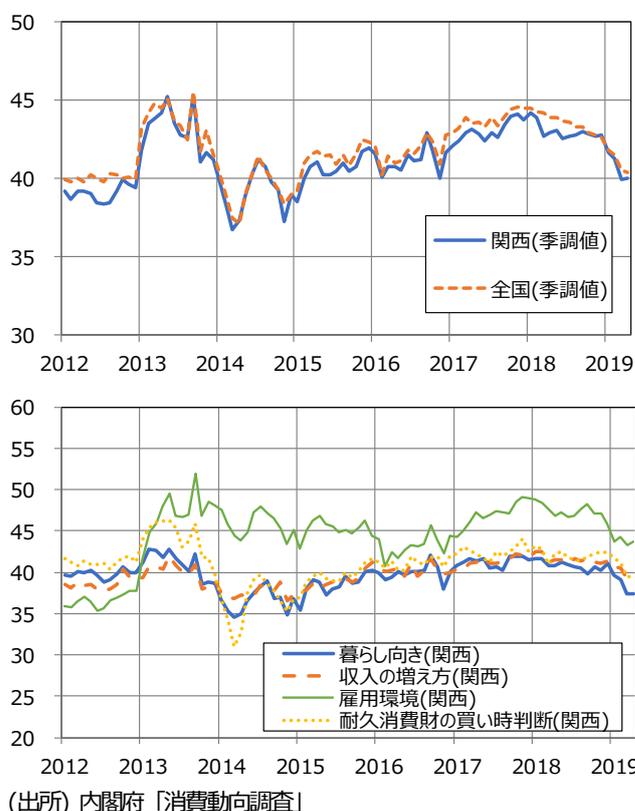
対EU貿易収支は+15億円で3カ月連続の黒字となったが、黒字幅は前年同月比-90.1%大幅縮小した。輸出(1,556億円)は2カ月連続のプラス(同+1.4%)。財別に見れば、無機化合物、コンデンサー等が増加した。輸入(1,541億円)は4カ月ぶりのプラス(同+11.7%)。財別に見れば、たばこ、有機化合物等が増加した。対EUの輸入額も輸出額も上昇しており、2月に発効した日・EU経済連携協定(EPA)の影響が見える。

【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西4月の消費者態度指数(季節調整値:APIR推計)は40.0と前月比+0.1ポイント小幅上昇し、4カ月ぶりに改善した。同指数の構成項目の内訳を見ると、雇用環境指数(43.7)は同+0.4ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。暮らし向き指数(37.4)は前月比横ばい。収入の増え方指数(39.2)は同-0.1ポイント小幅低下し、4カ月連続の悪化。耐久消費財の買い時判断指数(39.4)は同-0.1ポイント小幅低下し、4カ月連続の悪化であった。

消費者態度指数の推移(2010年1月~2019年4月)



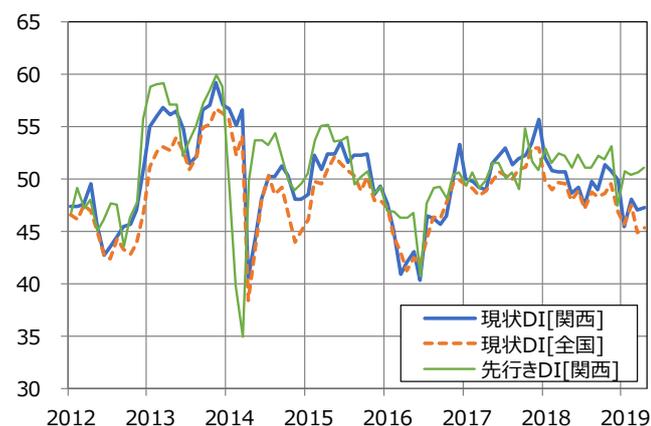
(出所) 内閣府「消費動向調査」

全国(季節調整値)は40.4と前月比-0.1ポイント小幅低下し、7カ月連続の悪化。内閣府は基調判断を「弱まっている」と前月から据え置いた。身近な食料品の値上げや世界経済の先行き不安に加え、耐久消費財の買い時への厳しい見方が影響した。同指数の構成内訳を見ると、耐久消費財の買い時判断指数(38.8)は同-1.1ポイント低下し、4カ月連続の悪化。収入の増え方指数(40.5)は同-0.1ポイント小幅低下し、5カ月連続の悪化。一方、雇用環境断指数(44.4)は同+0.7ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。暮らし向き指数(38.0)は同+0.3ポイント上昇し、11カ月ぶりの改善。改元前の期待から消費者マインドが上向いたとみられる。

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西4月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は47.2と前月比+0.2ポイント小幅上昇し、2カ月ぶりの改善だが、5カ月連続で50を下回った。引き続き堅調なインバウンド需要やレジャー関連を中心に改元に伴う消費者心理の影響もあり、足元は好調な動きが見られた。しかし、大型連休中の気温が安定せず季節商材の販売が芳しくなかった。一方、全国の同指数は45.3と同+0.5ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善であった。

景気ウォッチャー調査の推移(2010年1月~2019年4月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

先行き判断DI(季節調整値)は、関西で51.0と前月比+0.4ポイント小幅上昇し、2カ月連続の改善。引き続き堅調なインバウンド需要に加え、消費増税前の駆け込み需要の本格化

への期待感から改善が見込まれている。一方、全国は同-0.2ポイント低下し48.4と3カ月連続の悪化であった。

【所得・個人消費】

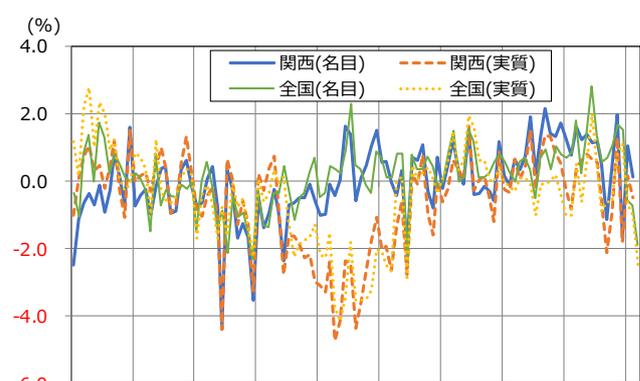
(1) 現金給与総額

2月の現金給与総額を公表府県別に見ると、兵庫県は前年同月比+1.7%(19カ月連続)、大阪府は同+0.4%(2カ月連続)、京都府は同+0.1%(7カ月ぶり)増加した。一方、奈良県は同-6.2%(8カ月連続)、和歌山県は同-4.2%(2カ月ぶり)、滋賀県は同-0.5%(14カ月連続)、それぞれ減少。結果、関西2府4県は同+0.1%小幅上昇し、2カ月連続のプラス。

京都・大阪・兵庫の加重平均をとった2月の「関西コア」賃金指数(APIR推計)は前年同月比+0.7%上昇し、2カ月連続のプラス。

関西2府4県の現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた2月の実質現金給与総額(実質賃金)は前年同月比-0.5%と2カ月ぶりに減少した。また、「関西コア」の実質賃金は同+0.1%上昇し、2カ月連続で改善したが、伸びは小幅にとどまった。

現金給与総額の推移(2010年1月~2019年2月)



(注)関西・関西コア(京都・大阪・兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

全国3月の現金給与総額(速報値)は、前年同月比-1.9%と3カ月連続の減少。30人以上規模の事業所の標本部分入れ替えや、パート比率の上昇も影響しているようである。

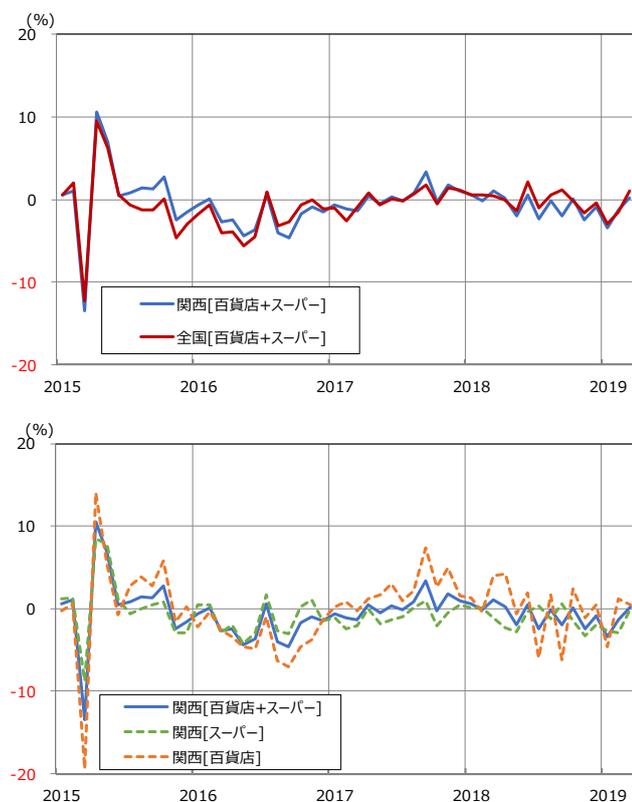
内訳を見ると、所定内給与は同-0.9%と3カ月連続の減少。所定外給与は同-3.1%と4カ月連続の減少。特別給与は同-12.4%と3カ月連続の減少。

また、現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた3月の実質現金給与総額は同-2.5%と3カ月連続で減少し、2015年6月以来の低下幅であった。

(2) 大型小売店販売額

関西3月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は3,176億円となり、前年同月比+0.2%と5カ月ぶりに前年の水準を上回った。うち、百貨店は同+0.4%と、2カ月連続のプラス。化粧品や高級時計をはじめ、好調なインバウンドがプラスに影響した。なお、関西の百貨店免税売上高(日銀大阪支店)は、4月に同+10.5%と3カ月連続の二桁増となった。単価は3カ月連続で上昇した(同+9.1%)。

大型小売店販売額の推移(2010年1月~2019年3月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

また、スーパーの販売額は前年同月比-0.0%と、6か月連

続のマイナス。食料品、衣料品、住居関連品ともに、気温の影響を受けて、季節品が不調となった。

全国3月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆6,552億円、前年同月比+1.0%と6カ月ぶりのプラス。うち、百貨店は同-1.5%と9カ月連続のマイナス。スーパーは同+2.4%と3カ月ぶりのプラス。なお、小売業販売額指数(季節調整済、後方3カ月移動平均)は前月比-0.4%と3カ月連続のマイナス。経済産業省は基調判断を「一進一退の小売業販売」と前月から据え置いた。

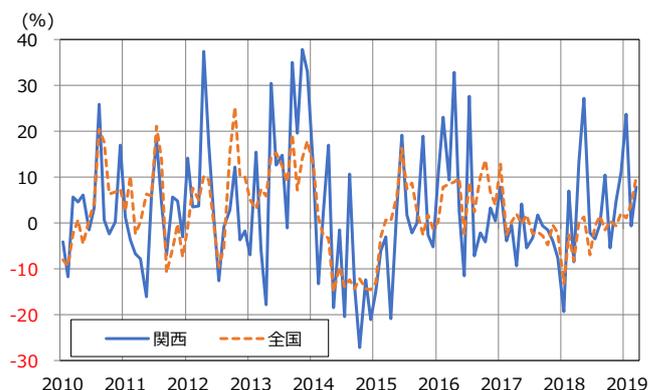
【住宅投資】

(1) 新設住宅着工の動向

関西3月の新設住宅着工戸数は11,626戸と前年同月比+7.8%と2カ月ぶりに増加した。

利用関係別に見ると、貸家は減少したものの、持家と分譲は増加した。具体的には、貸家は4,382戸で、前年同月比-5.9%と2カ月連続で減少。持家は2,944戸で同+12.5%と8カ月連続の増加。分譲は4,198戸で同+20.8%と2カ月ぶりに増加した。うち、マンションは2,410戸となり、同+45.7%(2カ月ぶり)と大幅増加。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月~2019年3月)

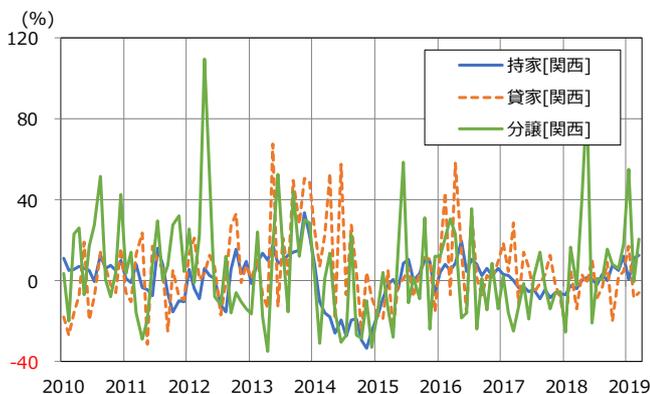


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

結果、1-3月期の関西の新設住宅着工戸数は前年同期比+9.4%と、4四半期連続で増加した。持家は同+8.2%、分譲は同+22.5%増加し、いずれも4四半期連続のプラス。一方、貸家は同-0.3%小幅減少し、3四半期連続のマイナス。

全国3月の新設住宅着工戸数は76,558戸となり、前年同月比+10.0%と4カ月連続の増加。利用関係別に見ると、持家は22,404戸(同+8.9%)となり6カ月連続の前年比増加。分譲は25,301戸(同+33.0%)と8カ月連続の増加。一方、貸家は28,413戸(同-4.5%)と7カ月連続の減少となった。金融機関はアパート建設向け融資を厳しくしているためである。結果、1-3月期の新設住宅着工戸数は前年同期比+5.2%と、2四半期連続で増加した。持家は同+7.4%、分譲は同+21.5%と、いずれも3四半期連続で増加した。なお、貸家は同-7.2%減少した(7四半期連続のマイナス)。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月~2019年3月)



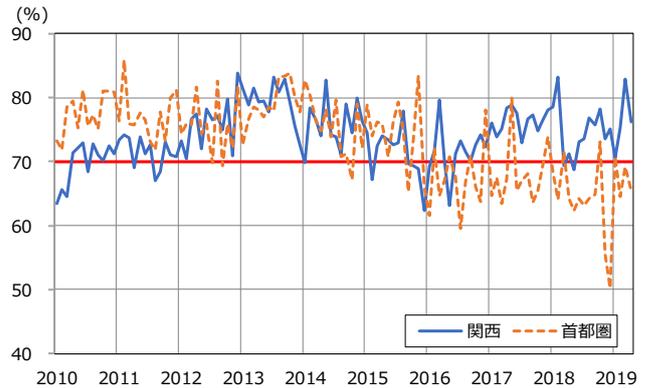
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

(2) マンション市場動向

関西4月のマンション契約率(売却戸数/発売戸数)は76.1%(季節調整値: APIR 推計)となり、前月から-6.8%ポイント低下した。3カ月ぶりのマイナスだが、好不調の目安となる70%を10カ月連続で上回った。契約率の地域別で見ると、奈良県(100%)、大阪市部(87.7%)、京都市部(82.5%)が高い水準を記録した一方、大阪府(56.2%)、兵庫県(55.8%)は比較的低い水準となった。

同月の首都圏のマンション契約率は65.5%(季節調整値: APIR 推計)と前月比-3.7%ポイントと2カ月ぶり低下となり、3カ月連続で70%を下回った。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2010年1月~2019年4月)



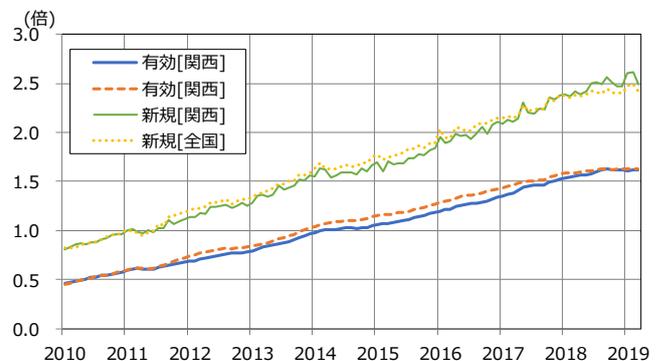
(出所) 株式会社不動産研究所「マンション市場動向」

【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

関西3月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.62倍で前月比横ばい。内訳をみると、有効求人数が同-1.1%、有効求職者数は同-1.4%といずれも3カ月連続の減少。労働需給のひっ迫が続いている。結果、2018年度の有効求人倍率は1.61倍と前年度比+0.12ポイント上昇した。

求人倍率(受理地別)の推移(2010年1月~2019年3月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

関西2府4県有効求人倍率(2019年1月~3月)

	全国	関西	滋賀県	京都市	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
2月	1.63	1.62	1.38	1.58	1.79	1.45	1.51	1.38
3月	1.63	1.62	1.36	1.61	1.79	1.46	1.53	1.41
前月差	0.00	0.00	▲0.02	0.03	0.00	0.01	0.02	0.03

府県別に見ると、3月は京都府が1.61倍と同+0.03ポイント(2カ月連続)、和歌山県が1.41倍と同+0.03ポイント(2カ月連続)、奈良県が1.53倍と同+0.02ポイント(2カ月連続)、兵庫県が1.46倍と同+0.01ポイント(6カ月ぶり)、

それぞれ上昇した。一方、大阪府が1.79倍で同横ばい、滋賀県が1.36倍で同-0.02ポイント(2カ月連続)低下した。

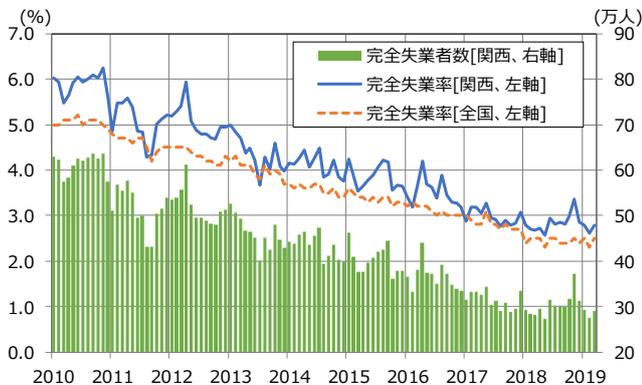
また、関西3月の新規求人倍率は2.49倍で前月比-0.12ポイント大幅低下し、4カ月ぶりの悪化。新規求人数は同-6.5%と3カ月ぶりに減少し、企業の雇用意欲に一服感がみられる。

全国3月の有効求人倍率(季節調整値)は1.63倍と前月比4カ月連続の横ばい。新規求人倍率は2.42倍で同-0.08ポイント低下し、5カ月ぶりの悪化であった。

(2) 完全失業率の推移

関西3月の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は2.8%と前月比+0.2%ポイント上昇し、4カ月ぶりの悪化。完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は29.1万人で前月比+1.7万人と4カ月ぶりに増加した。就業者数(季節調整値:APIR推計)が同-4.6万人と3カ月ぶりに減少し、雇用情勢に一服感がみられる。なお、2018年度の完全失業率は2.8%となり、前年から-0.1%ポイント低下した。

完全失業率の推移(2010年1月~2019年3月)



(出所)総務省「労働力調査」

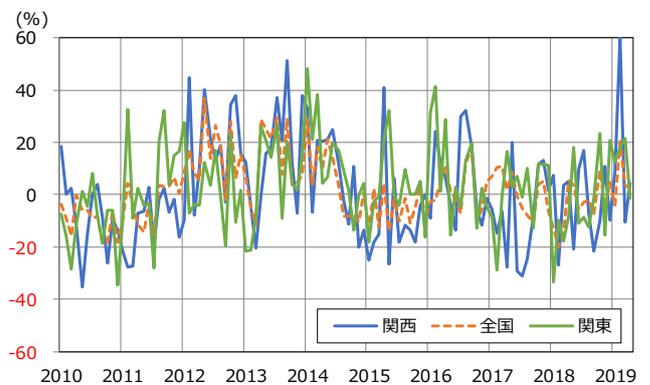
全国3月の完全失業率(季節調整値)は2.5%と、前月比+0.2%ポイント上昇し2カ月ぶりの悪化。完全失業者数(季節調整値)は174万人で前月比+14万人と2カ月ぶりの増加。理由別では、「非自発的な離職」は同-1万人減少、「自発的な離職(自己都合)」が同+16万人大幅増加、「新たに求職」は同-1万人減少した。

【公共投資・建設工事】

(1) 公共工事請負金額

関西4月の公共工事請負金額は2,206億円の前年同月比+4.2%と2カ月ぶりの増加。季節調整値(APIR推計)でも、前月比+7.9%と、2カ月ぶりの増加となった。工事場所別にみると、増加したのは奈良県(前年同月比+32.7%)、和歌山県(同+31.8%)、兵庫県(同+22.5%)、大阪府(同+6.6%)であった。一方、減少したのは京都府(同-25.1%)、滋賀県(同-4.8%)であった。

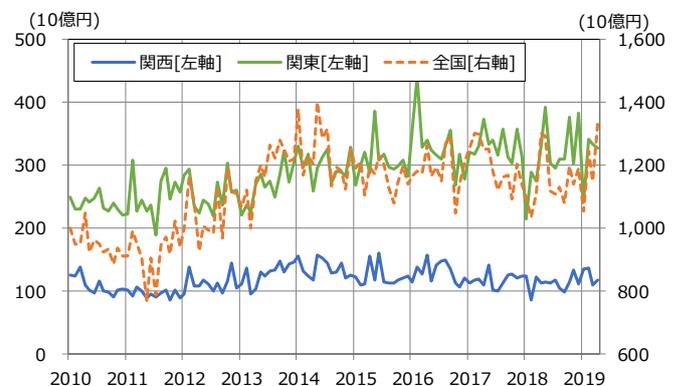
公共工事請負金額(伸び率)の推移(2010年1月~2019年4月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

関東は5,643億円で前年同月比-1.4%と5カ月ぶりのマイナス。全国は2兆2,329億円で同+2.5%と3カ月連続のプラスとなった。季節調整値(APIR推計)で見ると、関東は前月比-1.9%と2カ月連続減少したが、全国は同+16.1%と、2カ月ぶりの増加となった。

公共工事請負金額(季調値)の推移(2010年1月~2019年4月)



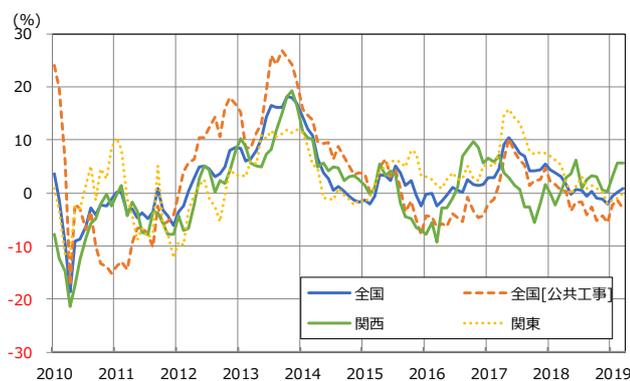
(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(2) 建設工事

関西3月の建設工事出来高は5,897億円となり、前年同月比+5.6%と13カ月連続の増加となった。一方、関東は1兆7,310億円で同+0.01%と小幅増加し、4カ月ぶりのプラス。

結果、関西の1-3月期の建設工事出来高は1兆8,002億円となり、前年同期比+4.7%と4四半期連続の増加。関東の建設工事出来高は5兆2,018億円となり、同-0.8%と2四半期連続で減少した。

建設工事出来高の推移(2010年1月~2019年3月)



(注) 2016年4月分より新推計に基づく出来高の参考値を反映。(出所)国土交通省「建設総合統計」

全国3月の建設工事出来高は4兆7,907億円と、前年同月比+0.8%と2カ月連続で増加した。うち、民間工事は2兆8,049億円で同+3.7%と48カ月連続で増加、公共工事は1兆9,858億円で同-3.0%と11カ月連続の減少となった。結果、1-3月期の建設工事出来高は前年同期比+0.1%と2四半期ぶりに増加した。うち、民間工事は同+1.8%と16四半期連続で増加、公共工事は同-2.2%と4四半期連続で減少した。

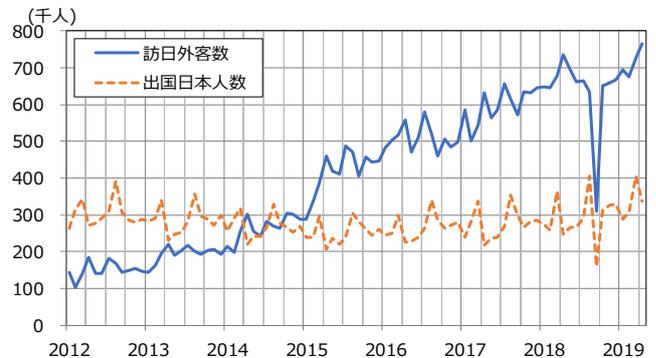
【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

4月の関空への外国人入国者数は76万4,040人となり、伸びは前年同月比+3.8%と7カ月連続のプラスだが、伸びは前月(同+7.0%)から幾分減速した。引き続き一桁台の伸びに留まっている。また、外国人出国者数は79万9,860人と同+5.0%で6カ月連続の増加。結果、外国人出入国者数は156万3,900人で同+4.4%と7カ月連続の増加。

また、日本人出国者数は33万7,740人で、前年同月比+36.3%と7カ月連続で増加した(3カ月連続の二桁の伸び)。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012年1月~2019年3月)

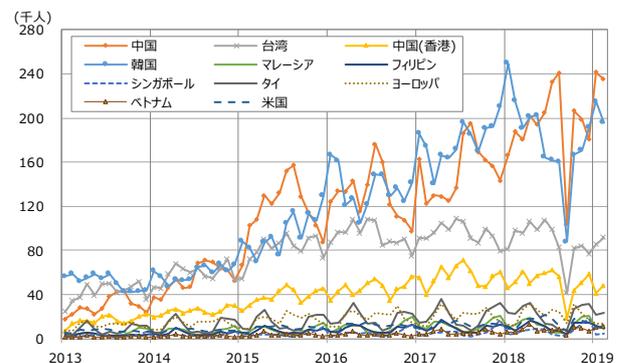


(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

2月の関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、中国(香港除く)からの入国者が23万5,380人(前年同月比+25.3%)と最多であった。次いで、韓国が19万5,912人(同-9.1%)、台湾が9万1,757人(同-6.5%)、香港が4万8,400人(同-5.8%)であった。台湾は2カ月ぶりの前年比減少、韓国・香港は9カ月連続の減少となり、依然として伸びは低調である。

地域別訪日外客数(2019年2月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

他のアジア各国は、タイが2万2,982人(前年同月比+2.3%)、マレーシアが1万1,718人(同-6.2%)、ベトナムが11,495人(同+97.6%)、フィリピンが9,147人(同+26.3%)、シンガポールが4,936人(同+5.7%)であった。昨年10月以降、フィリピンやベトナムの伸びが大きい。アジア以外の他地域を見ると、欧州全体では1万3,485人(同

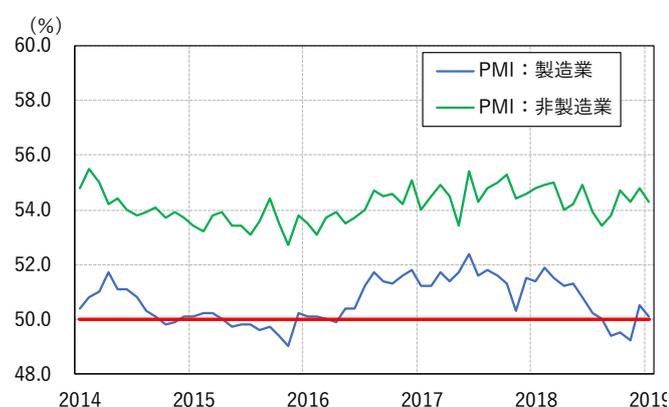
+12.6%)、米国が9,119人(同+16.2%)であった。

【中国景気モニター】

(1) センチメント

4月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.1%となり、前月比-0.4%ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化。しかし、2カ月連続で景気分岐点(50%)を上回った。非製造業 PMI は54.3%となり、同-0.5%ポイント低下し、2カ月ぶりに悪化した。

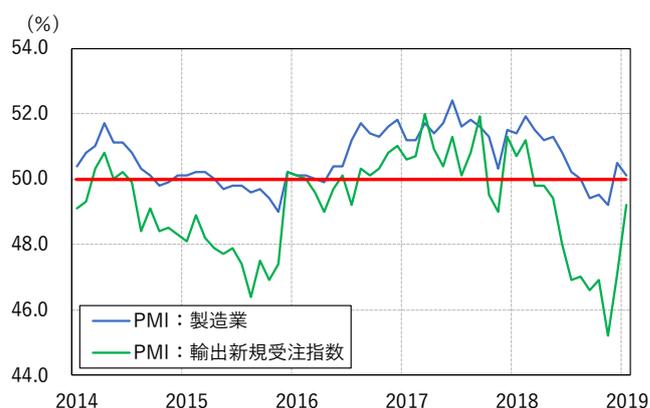
製造業・非製造業購買担当者景況指数(2014年1月~2019年4月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

製造業 PMI のうち、生産指数は52.1%と前月から-0.6%ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化。輸出新規受注指数は49.2%と同+2.1%ポイント上昇し、2カ月連続の改善。しかし、米国の制裁関税(3月公表、7月から実施)の影響を受け、昨年6月以降11カ月連続で50%を下回っている。引き続き注視する必要がある。雇用指数は47.2%と同-0.4%ポイント下落し、2カ月ぶりの悪化。また、25カ月連続で50%を下回った。

製造業購買担当者景況指数(2014年1月~2019年4月)

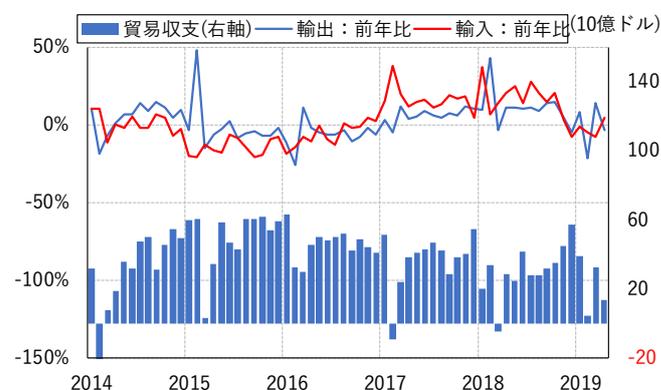


(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 貿易動向

4月の貿易収支は+138.4億ドルで13カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は1,934.9億ドル、前年同月比-3.3%と2カ月ぶりの減少。輸入額は1,796.5億ドル、同+4.7%と5カ月ぶりに増加した。

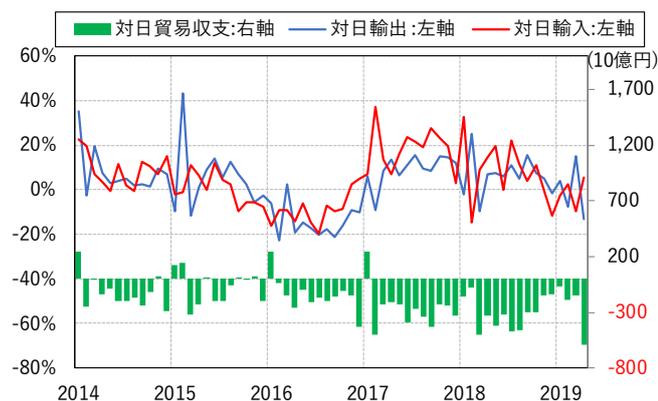
中国の貿易動向(ドル・ベース, 2014年1月~2019年4月)



(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

また、対日貿易収支は-52.7億ドルとなり、27カ月連続の赤字となった。対日輸出額は102.7億ドルとなり、前年同月比-16.3%と2カ月ぶりの減少。対日輸入額は155.4億ドルとなり、同+1.4%で2カ月ぶりの増加。なお、円ベースで見ると、対日輸出額は同-13.0%と2カ月ぶりの減少。一方、対日輸入額は同+5.4%と2カ月ぶりの増加である。

日本との貿易(円ベース, 2014年1月~2019年4月)



(出所)中国税関; CEICデータベース; APIR計算

[対米貿易]

4月の中国の対米貿易黒字は+210.1億ドル(前月:+205.0億ドル)となり、前年同月比-5.1%縮小し、2カ月ぶりのマイナス。同月の対米輸出額は313.6億ドルと同-13.1%で、2カ月ぶりの減少。また、対米輸入額は103.4億ドルとなり、同-25.7%と8カ月連続の減少であった。

対米輸出入の動向(2014年1月~2019年4月)



(出所)中国国家统计局; CEICデータベース

5月9日-10日にワシントンで閣僚級米中通商会議が行われたが、歩み寄りが見られず、10日から米国は中国に対して2,000億ドル分(中国対米輸出額の約40%相当の商品)に対して10%から25%まで関税を引き上げた。中国は対抗措置をとり、6月1日から対米輸出600億ドル分(米国対中輸出額の約40%相当の商品)のうち、2493品目、1078品目、974品目にそれぞれ25%、10%、5%相当分の関税を課した。米

中の貿易交渉はさらに長期化の様相を呈している。

(3) 工業生産

4月の工業生産は前月比+0.37%上昇したが、伸びは前月から-0.6%ポイントと3カ月ぶりに減速した。また、前年同月比+5.4%上昇したが、前月から-3.1%ポイントと同3カ月ぶりに減速した。

工業生産指数(2014年1月~2019年4月)



(出所)中国国家统计局; CEICデータベース

産業別に見ると、パソコン・通信設備製造業(前年同月比+12.4%)、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+11.5%)、非金属鉱物製品製造業(同+9.8%)などが高い伸びを示す一方、米国による対中関税引き上げ対象の産業、特に、金属製品製造業(同+3.3%)、専用設備製造業(同+2.8%)、通用設備製造業(同+2.0%)などは比較的低調な伸びにとどまった。また、ゴム・プラスチック製品製造業(同-0.2%)、自動車製造業(同-1.1%)、繊維工業(同-1.8%)などは減産となった。米中貿易摩擦が中国工業生産に与える影響の顕在化がしている。

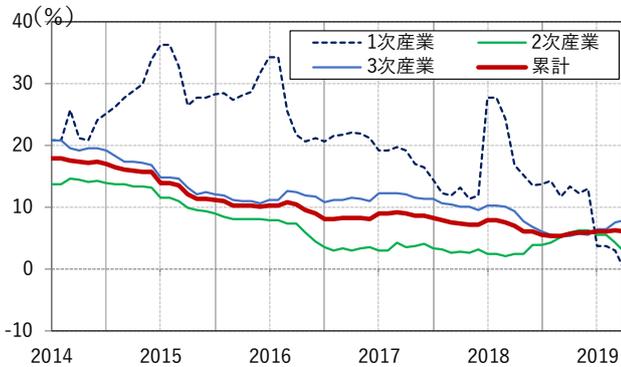
(4) 固定資産投資

2019年1-4月期の累積固定資産投資(名目)は前年同期比+6.1%となり、1-3月期から-0.2%ポイントと8カ月ぶりに下落している。

産業別に見れば、第1次産業は前年比-0.1%減少し、伸びは前月から-3.1%ポイント下落し、2カ月連続のマイナス。第2次産業は同+2.8%と前月から-1.4%ポイントと同2カ月連

続で下落した。第3次産業は同+7.9%で、伸びは前月から+0.4%ポイント小幅上昇し、4カ月連続で加速した。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2014年1月~2019年4月)

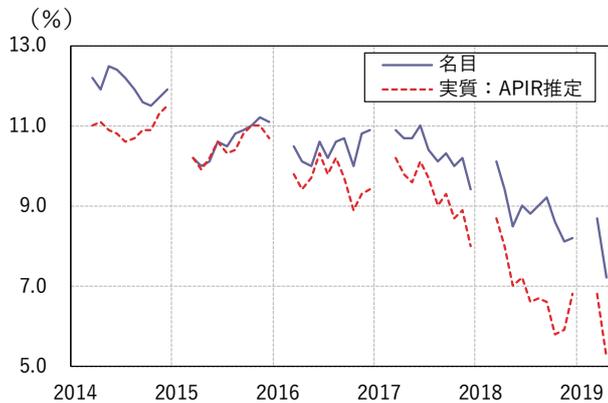


(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

4月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+7.2%となり、伸びは前月から-1.5%ポイントと3カ月ぶりに下落した。2003年5月(同+4.3%)以来、約16年ぶりの低水準となった。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR推計)をみると、伸びは同+5.2%と前月から-1.6%ポイント低下した。

社会消費品小売総額(2014年1月~2019年4月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

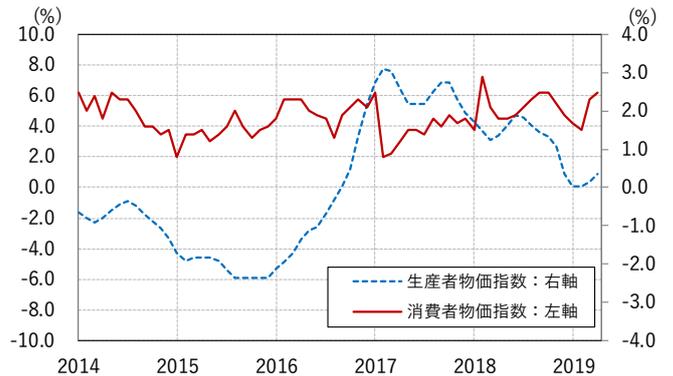
(6) 物価水準

4月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.5%で、前月から+0.2%ポイント上昇し、2カ月連続の加速。うち、食品価格は同+6.1%上昇し、CPIへの寄与度は+1.19%ポイント

であった。野菜価格が同+17.4%大幅上昇し、豚肉価格も同+14.4%上昇し2カ月連続のプラス。

また、生産者物価指数(PPI)は前年同月比+0.9%となり、前月から+0.5%ポイント上昇し、2カ月連続の加速である。うち、生産財(生産資料)価格は同+0.9%上昇し、前月から+0.6%ポイント加速。消費財(生活資料)価格は同+0.9%上昇し、前月から+0.4%ポイント加速した。

消費者物価指数・生産者物価指数(2013年1月~2019年4月)

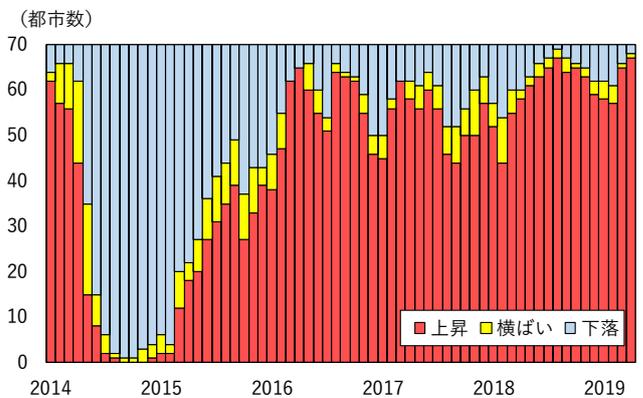


(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(7) 不動産市場

4月の不動産市場はやや回復している。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は67で前月から2都市増加した(2カ月連続)。一方、下落した都市数は2で前月から2都市減少した(2カ月連続)。また、横ばいの都市数は1で前月から横ばい。

新築住宅価格の主要都市集計(2014年1月~2019年4月)

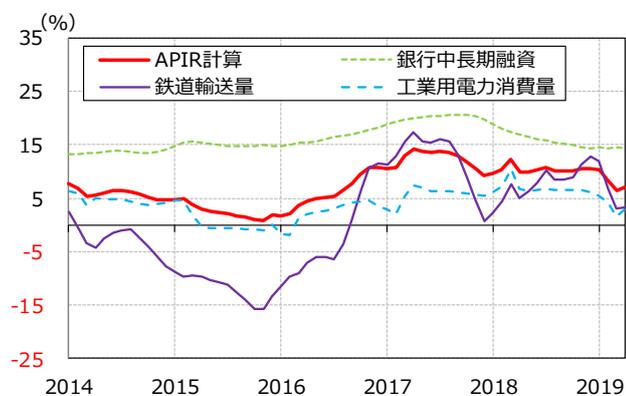


(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(8) リコノミクス指数

3月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年同月比+6.4%と前月から-2.0%ポイント低下し、3カ月連続で減速した。内訳をみると、銀行中長期融資は同+14.4%となり、伸びは前月から同+0.1%ポイント上昇し、19カ月ぶりに加速した。鉄道輸送量は同+3.0%となり、伸びは前月から-3.8%ポイント低下し、3カ月連続で減速した。工業用電力消費量は同+1.6%となり、伸びは前月から同-2.6%ポイント低下し、5カ月連続で減速した。

APIR 試算のリコノミクス指数とその内訳(2019年3月まで)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 野村亮輔

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	18/4M	18/5M	18/6M	18/7M	18/8M	18/9M	18/10M	18/11M	18/12M	19/1M	19/2M	19/3M	19/4M
景 況 感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	50.1	47.5	48.6	46.7	49.6	48.8	52.5	52.8	49.9	45.4	48.0	47.0	47.2
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	52.1	50.8	52.4	50.8	51.2	52.9	52.8	53.4	47.4	50.7	50.4	50.6	51.0
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	49.0	47.1	48.1	46.6	48.7	48.6	49.5	51.0	46.8	45.6	47.5	44.8	45.3
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	50.1	49.2	50.0	49.0	51.4	51.3	50.6	52.2	47.9	49.4	48.9	48.6	48.4
消 費 者 心 理 ・ 小 売													
[関西]消費者態度指数(原数値)	42.9	43.2	43.3	42.9	43.2	42.7	42.6	42.4	42.5	41.8	40.6	40.1	40.0
[関西]「暮らし向き」(原数値)	40.7	41.5	41.5	40.9	41.2	39.6	40.5	40.3	40.6	40.2	38.1	37.2	37.3
[関西]「収入の増え方」(原数値)	41.6	42.1	41.7	41.8	41.8	41.8	40.8	40.9	40.6	40.8	39.8	39.2	39.3
[関西]「雇用環境」(原数値)	47.4	47.1	47.4	47.0	47.9	47.1	46.6	46.4	46.0	44.1	44.1	44.0	44.2
[関西]「耐久消費財の買い判断」(原数値)	41.7	42.1	42.4	41.9	41.7	42.2	42.3	42.0	42.6	41.9	40.5	39.8	39.0
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	43.6	43.8	43.7	43.5	43.3	43.4	43.0	42.9	42.7	41.9	41.5	40.5	40.4
[関西]大型小売店販売額(10億円)	305.1	302.8	306.5	331.0	304.9	287.8	310.5	321.4	407.1	321.5	282.5	317.6	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	0.2	-2.0	0.5	-2.4	-0.2	-2.0	0.1	-2.4	-0.8	-3.4	-1.3	0.2	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,556.4	1,566.4	1,603.0	1,700.2	1,575.1	1,513.6	1,586.2	1,642.3	2,082.5	1,632.2	1,434.5	1,655.2	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	-0.1	-1.4	2.1	-1.0	0.6	1.1	-0.2	-1.7	-0.5	-3.0	-1.5	1.0	UN
住 宅 ・ 建 設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	13,392	14,140	11,737	12,151	11,768	12,545	11,496	12,329	11,360	11,371	11,310	11,626	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比%)	13.4	27.2	-2.2	-3.6	-0.2	10.5	-5.5	4.8	11.1	23.7	-0.7	7.8	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	84,226	79,539	81,275	82,615	81,860	81,903	83,330	84,213	78,364	67,087	71,966	76,558	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比%)	0.3	1.3	-7.1	-0.7	1.6	-1.5	0.3	-0.6	2.1	1.1	4.2	10.0	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	71.2	68.8	73.1	73.5	76.8	75.7	78.2	73.6	75.1	70.5	75.2	83.0	76.1
[関西]マンション契約率(原数値)	71.0	69.5	75.6	74.0	80.6	72.8	77.7	74.4	72.1	70.2	75.8	80.6	75.9
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	64.2	62.3	64.3	63.1	64.2	64.9	73.1	55.5	50.2	70.8	64.7	69.2	65.5
[首都圏]マンション契約率(原数値)	63.0	62.2	66.0	67.8	64.5	66.5	67.5	53.9	49.4	67.5	65.6	72.2	64.3
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	211.7	116.4	134.5	140.9	95.4	109.3	116.9	94.7	88.0	71.4	80.0	109.3	220.6
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	4.9	-21.0	9.9	17.1	-7.1	-21.6	-10.0	10.9	-9.8	9.1	60.5	-10.5	4.2
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	2,177.7	1,285.7	1,433.9	1,252.0	1,124.1	1,218.6	1,282.3	818.9	834.0	585.3	739.0	1,316.5	2,232.9
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	5.5	3.5	-5.6	-2.9	-2.2	-7.6	9.5	-5.2	4.6	-4.1	20.4	3.7	2.5
[関西]建設工事(総合、10億円)	484.7	482.3	513.4	504.7	529.4	554.3	564.2	589.8	610.4	607.9	602.7	589.7	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	2.9	3.7	6.2	0.9	2.5	3.3	3.0	0.5	0.2	3.0	5.7	5.6	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	3,960.9	3,893.5	4,124.0	4,264.0	4,447.2	4,705.1	4,850.7	4,915.6	4,945.3	4,897.0	4,811.8	4,790.7	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	1.5	-0.2	0.7	0.5	-0.5	0.3	-1.1	-1.1	-2.2	-0.7	0.1	0.8	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	1,455.3	1,380.9	1,479.7	1,540.2	1,642.2	1,826.6	1,938.5	1,996.5	2,042.5	2,047.5	2,013.0	1,985.8	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	0.3	-3.3	-1.7	-1.8	-4.1	-2.6	-5.2	-4.2	-5.6	-2.3	-1.4	-3.0	UN
生 産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	113.9	106.7	107.7	105.6	108.3	102.5	105.9	104.7	102.8	100.8	102.3	101.1	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	5.2	-6.3	0.9	-1.9	2.6	-1.3	3.3	-1.7	-1.5	-1.9	1.7	-1.2	UN
[関西]「出荷指数」(原数値、前年同月比%)	5.1	3.5	-1.7	1.0	0.2	-3.6	7.0	0.8	-2.9	-0.5	-4.0	-7.0	UN
[関西]「在庫指数」(原数値、前年同月比%)	3.5	1.0	0.7	-1.7	-2.7	0.1	-3.9	-2.8	-1.7	-2.9	-1.8	-0.1	UN
[関西]「出荷指数」(季節調整値、10年=100)	111.1	105.6	105.9	102.9	106.8	101.3	108.1	104.3	102.7	101.3	101.1	101.0	UN
[関西]「出荷指数」(季節調整値、前月比)	6.1	-5.0	0.3	-2.8	3.8	-4.3	6.7	-4.0	-1.5	-1.4	-0.1	0.2	UN
[関西]「在庫指数」(季節調整値、10年=100)	127.2	125.5	122.9	120.8	120.6	100.1	97.7	98.3	100.7	98.6	99.6	102.8	UN
[関西]「在庫指数」(季節調整値、前月比)	0.2	-1.3	-2.1	-1.7	-0.2	3.7	-2.4	0.7	2.4	-2.1	1.2	2.8	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	104.6	104.4	102.5	102.3	103.3	102.9	105.9	104.8	104.7	101.1	102.5	102.2	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	0.5	-0.2	-1.8	-0.2	0.3	-0.4	2.9	-1.0	-0.1	-3.4	1.4	-0.6	UN
[全国]「出荷指数」(原数値、前年同月比%)	3.6	3.3	-0.2	1.2	0.6	-2.9	5.7	0.9	-3.1	-0.4	-0.3	-4.0	UN
[全国]「在庫指数」(原数値、前年同月比%)	1.7	2.5	2.4	2.8	2.8	3.5	-0.7	0.6	1.9	1.3	1.4	0.2	UN
[全国]「出荷指数」(季節調整値、10年=100)	103.1	101.5	101.8	99.8	103.2	101.1	104.6	103.3	103.3	99.8	101.6	100.9	UN
[全国]「出荷指数」(季節調整値、前月比)	1.6	-1.6	0.3	-2.0	1.8	-2.0	3.5	-1.2	0.0	-3.4	1.8	-1.3	UN
[全国]「在庫指数」(季節調整値、10年=100)	112.8	113.5	111.4	111.2	101.4	102.6	101.3	101.4	103.1	101.7	102.2	103.8	UN
[全国]「在庫指数」(季節調整値、前月比)	-0.6	0.6	-1.9	-0.2	-0.2	1.2	-1.3	0.1	1.7	-1.4	0.5	1.4	UN
労 働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	1.2	1.4	1.1	1.2	0.5	-1.1	0.4	2.0	-1.7	1.0	0.1	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	1.8	2.1	1.1	2.5	0.8	-0.6	0.9	2.6	-1.3	1.3	0.7	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	0.2	1.4	2.8	1.4	0.6	0.7	1.1	1.7	1.5	-0.6	-0.7	-1.9	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	2.7	2.6	3.0	2.9	2.8	2.9	3.0	3.4	2.5	2.8	2.6	2.8	UN
[関西]完全失業率(原数値)	2.6	2.5	3.0	3.0	3.0	3.1	3.0	3.1	2.4	2.7	2.7	2.8	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	2.5	2.2	2.4	2.5	2.4	2.3	2.4	2.5	1.6	2.5	2.3	2.5	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.39	2.37	2.53	2.54	2.46	2.61	2.53	2.45	2.47	2.60	2.61	2.49	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.37	2.34	2.47	2.42	2.34	2.50	2.40	2.40	2.40	2.48	2.50	2.42	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.56	1.56	1.58	1.60	1.62	1.64	1.63	1.62	1.62	1.61	1.62	1.62	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.59	1.60	1.62	1.63	1.63	1.64	1.62	1.63	1.63	1.63	1.63	1.63	UN
国 際 貿 易													
[関西]純輸出(10億円)	236.3	82.3	268.1	85.6	179.2	179.8	115.6	19.9	179.5	-184.0	213.7	273.5	104.6
[関西]輸出(10億円)	1,443.2	1,402.8	1,520.9	1,434.1	1,519.3	1,112.4	1,517.8	1,505.0	1,474.8	1,179.8	1,319.8	1,500.1	1,354.4
[関西]輸出(前年同月比%)	8.1	13.2	9.9	7.9	9.9	-25.0	6.5	-1.0	-7.2	-9.5	-2.0	-6.3	-5.7
[関西]輸入(10億円)	1,207.0	1,320.5	1,252.8	1,348.6	1,340.1	931.8	1,402.1	1,485.1	1,295.3	1,363.8	1,106.1	1,226.6	1,249.8
[関西]輸入(前年同月比%)	4.0	15.3	3.4	12.9	9.8	-24.4	10.8	9.4	-2.9	0.4	-9.8	-1.4	3.3

注：鉱工業生産 輸送機械工業は銅船・鉄道車両除く。

Release Calendar for April/May

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
22-Apr	23-Apr 毎月勤労統計調査 (2月:確報値) 近畿地域 鉱工業生産動向 (2月:確報値)	24-Apr	25-Apr 出入国管理統計 (2月)*	26-Apr 商業動態統計 (3月:速報値) 全国鉱工業生産指数 (3月:速報値) 建築着工統計 (3月) 一般職業紹介状況 (3月) 労働力調査 (3月) 全国貿易統計 (3月:確速)
29-Apr 昭和の日	30-Apr 国民の休日 中国製造業 PMI (4月)	1-May 天皇即位の日	2-May 国民の休日	3-May 憲法記念日
6-May 振替休日	7-May	8-May 中国輸出入 (4月:速報値)	9-May 消費動向調査(4月) 中国 CPI&PPI (4月)	10-May 近畿貿易統計 (2月:確報) 近畿貿易統計 (3月:確・速) 毎月勤労統計調査 (3月:速報値)
13-May 百貨店・スーパー販売 状況(3月:速報値)	14-May 景気ウォッチャー 調査(4月)	15-May 公共工事前払金保証 統計(4月) 近畿地域鉱工業 生産動向(3月:速報) 中国工業生産(4月) 中国消費小売総額 (4月) 中国固定資産投資 (4月)	16-May 中国不動産市場 (4月)	17-May 商業動態統計 (3月:確報値)
20-May 全国鉱工業生産指数 (3月:確報値) 出入(帰)国者数 (4月)* 1-3月期 GDP (1次速報値)	21-May マンション市場動向 (4月)	22-May 建設総合統計(3月) 全国貿易統計 (4月:速報) 近畿貿易統計 (4月:速報)	23-May	24-May 出入国管理統計 (3月)*

*印は発表予定日が未定。